

NTTソフトウェア

## サービス指向で重要となるアクセス認証 — 連携型 ID 管理の重要性と TrustBind —

### サービス指向 (SOA) でますます 重要性が高まる認証技術

個人情報や機密情報の漏洩が大きな社会問題となっている現在、ネットワークを介しての安心・安全で、かつサービス指向を目指したユビキタス ICT 環境の実現が求められている。セキュリティでもサービス指向が重要となっており、特に認証技術 (アクセス認証) は SOA (Service Oriented Architecture) と融合していく。この点について、NTTソフトウェア (株) 営業推進本部第二営業部の倉田冬彦統括部長は、次のように指摘する。

「IT系調査会社ガートナーの見通しによると、生産・流通・小売の業界と金融業界のサービス連携が加速する中、セキュリティ技術として企業間連携を伴う認証情報 (ID) の管理や、利用者の状態・属性・階層などの安全かつ利便性の高い管理方法が求められてきます。企業のビジネスが異業種をまたがるサービス指向 (SOA) でつながり、複合・複雑化するサービスの中で、プレゼンスと認証の体系化による認証技術は、重要な実用化の段階にきているといえます。特に、NGNへの移行や FMCの進展は、社会に大きなパラダイムシフトを生み出すと予想さ

れており、サービス連携による新しいサービスを生み出す場として、ユーザーコントロールサービス (アクセス認証) の提供は不可欠です。このような 2010 年代の近未来社会では、企業をまたがってセキュリティと EAI などが連携した複合ソリューションが求められるでしょう。セキュリティのキー製品としてのデータ暗号アプライアンスや PKI、バイオメトリクス、スマートトークン、連携型 ID 管理などは、2010 年代を担う実用化セキュリティ技術として注目されます。」

具体的には、簡単便利なマルチサービスのワンストップサービス化への潮流として、今ホットなサービスである Suica、Edy、PASMO、iD、nanaco、WAON といったプリペイド型電子マネーでも、企業間連携をにらんで連携型 ID 管理の重要性が増してくるといえる。倉田統括部長は、「私も Suica や Edy、iD をスマートトークンとして携帯電話に入れてあります。その他、ANA や JAL のチケットトークンも入っています。すべて電子決済化されており、どこでもいつでもかざすだけで処理がリアルタイムに行われるために非常に便利です。しかし、スマー



NTTソフトウェア(株)  
営業推進本部 第二営業部 統括部長  
倉田 冬彦氏

トトークン自体に入っている PKI の証明書の登録・変更・破棄の運用面での煩雑さは業界や国家レベルの社会インフラとして整備して解決する必要があると思います。」と語る。

### SaaS や SOA との組合わせて 注目を集める連携型 ID 管理

企業のビジネス環境が、単なる企業間の業務連携から SaaS (Software as a Service) や SOA に基づくサービス統合へと進化してき

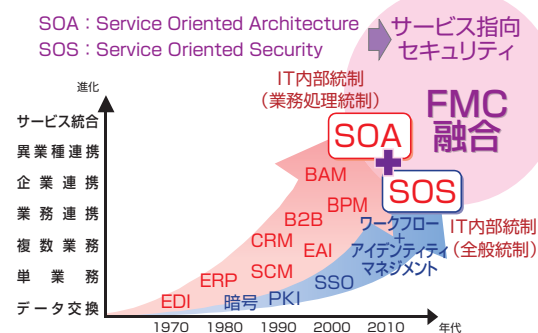


図1 サービス指向セキュリティへの潮流

ている現在、セキュリティ技術の潮流は「SOA+SOS (Service Oriented Security)」の「サービス指向セキュリティ」へと進化することは間違いなく(図1)。特に、先に述べたFMCをすでに実現した身近な電子マネーにおいても、これからは企業間をまたがるユーザーコントロールの重要なセキュリティ技術として、最近注目を集めているのが連携型ID管理技術である。

### SAML2.0に準拠した連携型ID管理ソリューション「TrustBind」

NTTソフトウェアでは、インターネット上のサービス間でIDを連携させ、シングルサインオンや、ユーザー情報の交換を安心・安全に実現する連携型ID管理ソリューション「TrustBind/Federation Manager」を販売している。本製品は、NTT情報流通プラットフォーム研究所が開発したID情報流通技術「I-dLive」を商品化したものである。Webサービスにおけるセキュリティ標準仕様のSAML2.0 (Security Assertion Markup Language) 及びLiberty AllianceのID-FF1.2、ID-WSF1.0の適合試験に合格、標準化団体であるOASIS及びLiberty Allianceより認定を受けている。

SAML2.0は、独立した異なるユーザー体系を有するサービスシステム間でIDを連携するための仕様であり、同仕様には、ID連携によるシングルサインオンやユーザー情報の交換についても規定されている。本製品は、これらの仕組みを実現す

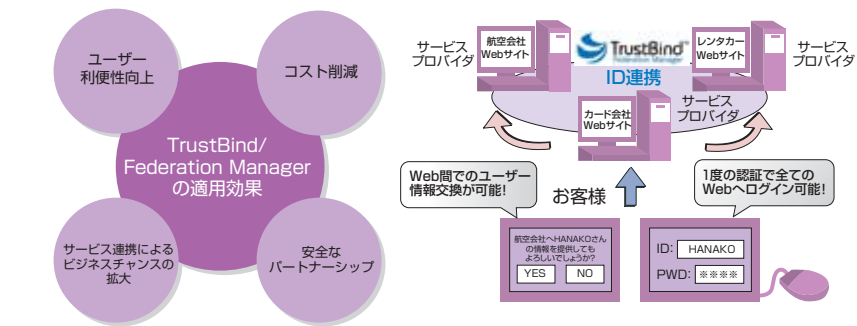


図2 TrustBind/Federation Managerの適用効果とサービスイメージ

るためのアプリケーションプラットフォームである。

TrustBind/Federation Managerの主な適用効果とサービスイメージを示す(図2)。

- ・ **ユーザーの利便性向上**：シングルサインオンやユーザー情報の交換により、ユーザーの各種情報入力の手間が省け、利便性の向上が図れる。
- ・ **コスト削減**：サービスの増加に伴うID管理業務の煩雑さを抑えることで管理コストを削減することができる。また、広範なSAML2.0仕様への対応を本製品が実現したことで、同仕様対応における開発コストの削減が図れる。
- ・ **サービス連携によるビジネスチャンスの拡大**：ID連携によるシームレスなサービス提供を実現することで、ますます拡大するWebサービスのメリットを最大限に活用することができる。
- ・ **安全なパートナーシップ**：SAML2.0を利用することで、ユーザー管理の独立性を維持しつつ、企業間のサービス連携を実現する。これらの効果を実現した例として、NTTコミュニケーションズのコンシューマ向け統合認証プラット

フォーム「マスターID」サービスがある。これにより、利用者は同社のコンシューマ向けWebサービスのマスターID1つですべてログインすることができる。さらに本年7月からは、NTTレゾナントが「goo」上で提供する各種Webサービスの会員ID「gooID」とマスターIDの連携を高いコスト効果で実現し、シングルサインオンで両Webサービスの相互利用を可能にしている。

TrustBind/Federation Managerの今後の展開について、倉田統括部長は、「現在、お客様環境の特性にあわせて、NTT研究所と協力しながら様々な認証技術を組み合わせた認証方式への対応を図っていきたいと考えています。また、シングルサインオン機能の拡充として、ID-WSF2.0への対応を含め、私どもの高い実績を誇るシングルサインオン認証システム“CSLGuard (コンソールガード)”との連携も可能です。」としている。

#### お問い合わせ先

NTTソフトウェア(株)  
 営業推進本部 第二営業部  
 E-mail : tssol@cs.ntts.co.jp  
 TEL : 03-5782-7261  
 URL : http://www.ntts.co.jp/